

大田玉茗 おたまき 詩人。明治四年五月六日埼玉縣生れ、昭和二年四月
 六日歿（一八七二—一九二七）。舊姓津藤。大田、木名二村を綱、幼名藏二。
 筆名元綱、大田元綱、大田之綱、大田玉茗堂、玉茗堂、玉茗名堂のちる
 じ、玉茗堂主人、玉茗堂主人元綱等。明治十五年得度、二十一年曹洞
 宗専門本校大學生等と叙卒、二十七年東京専門學校卒、三十一年羽生
 山蓮福寺住職。この間投稿誌を介し田山花袋と親交。次は松浦衣男の
 門に入り宮田湖庵子等と紅葉會を興した他、雑誌『小櫻齋』、『少年
 園』等の新體詩を發表し、小説『玉茗』等も執筆した。花袋の義兄。
 著書『春葉集』（合著・石橋折次郎編、明治二十年十一月）、『二百文
 盛堂』、『大田玉茗詩集』（田舎教師研究会編、平成八年二月）、『八
 日崎玉・羽生市』等。

